

平成 28 年度いじめ未然防止プログラム「主な活動（概要）」

【学校名】北海道旭川工業高等学校（定時制）
【活動の名称】 食の感謝祭
【活用した資源】生徒会活動
【対象学年と活動の時期】全校生徒 6月

（項目イー観点②絆づくり）

【活動の概要】

- ・生徒全員が協力しながら野外炊事を実施する。

【ねらい】

- ・仲間たちや教職員らと共に語らい親睦を深め合う。
- ・生きるために他の動植物の命を「いただいている」ことに気付かせる。

【活動の流れ】

[前日までの事前活動]

- ①生徒会で計画・立案（生徒総会で承認）する。
- ②生徒会でセレモニーの内容等を検討する。
- ③各クラスで係分担（買い出し・火起こしなど）を決める。
- ④各クラスで予算に合わせ買い出しする材料等を話し合う。
- ⑤各クラスでセレモニー（イベント(ゲーム)）出場者を決める。



生徒総会

[当日の活動]

- ①それぞれの生徒が係分担ごとに準備をする。
 - ・炊事に使った炭を埋めるための穴掘り、コンロ等の設置、火起こし、買い出しをする。
 - ・生徒会役員はセレモニーの準備をする。



準備・調理

- ②炊事をする。
 - ・食事メニューはすべて自分たちで考える。

- ③セレモニーを行う。
 - ・学校長挨拶
 - ・生徒会長挨拶
 - ・軽音楽部の野外ライブ
 - ・イベント（ゲーム）

※PTA によるアイス
クリームなどの差し
入れがあることも・・・



イベント（パン食い競争）

- ④全員で後片付けと清掃を行う。

[生徒の感想]

- ・食の感謝祭は毎年楽しみしている。
- ・食の感謝祭を通して、食に対する感謝の気持ちが出てくる。こういう機会がなければ、食に対する感謝の気持ちは出てこないと思う。
- ・食事を一緒に作ることでさらに仲良くなることができると思う。
- ・おいしいご飯をみんなで楽しむことができ、絆が深まった。



クラスごとに食事

【本活動における成果等（留意点含む）】

- ・生徒全員が協力して準備・片付けをすることで互いの信頼関係を深めることができた。
- ・火起こし、予算やクラスメートの希望に合わせて買い出しをするなど、適度に困難な体験をすることで互いに協力し合える人間関係を築くことができた。
- ・調理や買い出しにおいて、生徒のアルバイト経験やつながりを活用することができ、生徒の自己有用感を高めることができた。
- ・皆で炉を囲んで食事をすることで生徒間や教職員との親睦をより深めることができた。
- ・生徒が毎年楽しみにしている行事であり、生徒会が計画・立案して進めることで、生徒一人一人が生徒会の一員であることの自覚が深まった。

【学校名】北海道幌加内高等学校			
【活動の名称】 幌高商店会の経営（六次産業化教育）			
【活用した資源】拓殖大学北海道短期大学、札幌ベルエポック専門学校、日本航空専門学校、旭川高等技術専門学院	(項目ウー観点①居場所づくり)		
【対象学年と活動の時期】全学年年4回（7・10・12・2月）			

【活動の概要】
 ・日常の授業と外部の専門家から得た知識等を基に、生徒が主体的に幌高商店会を運営し、地域の方へ、そばや農産加工品を販売する活動でソーシャルスキルを身に付けさせる。

【ねらい】
 ・同世代や異世代との交流を通してコミュニケーションスキルを身に付けさせ、いじめ未然防止を図る。
 ・学校内の学習に加えて高大連携で学習した知識を基に、幌高商店会を生徒が主体で経営することで、生徒同士の協働や、来店するお客様への対応を通して、自己有用感を醸成するとともに、自己理解を深めるなど多様性を理解させる。【主体性と協働性】

【活動の流れ】
 <土曜授業>

4/16(土)	<ココロ>と<カラダ>をつなぐWS	拓殖大学北海道短期大学	保坂助教
6/11(土)	商品パッケージ・包装と接遇	札幌ベルエポック製菓調理専門学校	放生講師
6/18(土)	ラベルデザイン開発	旭川高等技術専門学院	
7/23(土)	第1回 幌高商店会販売会		
9/3(土)4(日)	幌加内町新そば祭り		
9/10(土)	サービス接遇・おもてなしマナー講座	日本航空専門学校(ANA 講師)	
10/29(土)	第2回 幌高商店会販売会		
12/17(土)	第3回 幌高商店会販売会		
2/18(土)	第4回 幌高商店会販売会		
3/11(土)	幌高商店会販売会経営総括	旭川大学経済学部	江口教授
3/18(土)	調理技術	旭川調理師専門学校	

<活動体制>
 1 年4回、学年を縦割りにして、全校生徒を6つの会社組織に編成する。上級生と下級生が協働して店舗経営のノウハウや調理技術の伝承を行う。
 店舗経営では、主体的で対話的な深い学びとコミュニケーション能力が養われる。アンケート等外部評価を活用して、各会社の質の向上を図ることを目的とした課題解決型学習を行う。
 2 商店会経営を通して、「衛生管理」、「季節のメニュー作り」、「心に届く接客」、「空間演出」、「トラブルの対処」、「広報」等、農業の六次産業化について多面的に学び、21世紀型スキルを育成する。

6つの会社組織
 幌高製麺
 幌高そば
 カフェ幌高
 ベーカリー幌高
 幌高青果店
 幌高広告社



Plan: 店舗計画



Plan: 経営計画発表



Do: 調理練習・準備



↑ 【農業の六次産業化教育を通して身に付くキャリア】 ↓

Act: 店長間引継ぎ



Check: 経営結果報告



Do: 商店会本番



【本活動における成果等（留意点含む）】
 ・日常の授業や土曜授業で、主体的に考えて行動するなど、学習姿勢に積極性が見られた。
 ・来客数の増加と接遇の反応、販売物の完売などから、達成感や自己有用感が得られた。
 ・経営を通して、利益や原価率、純利益など社会構造を知ることによって学習意欲の向上に繋がった。

【学校名】北海道遠別農業高等学校
【活動の名称】 農業体験を通じた幼児センター等との交流学習会の実施 ・幼児センター「きらり」の幼児との花壇造成、枝豆収穫 ・小学生とのトウモロコシ定植、田植え、収穫体験、餅つき ・アンテナショップ「遠農高マルシェ」、町内イベントにおける出張マルシェでの販売活動、花いっぱい運動等
【活用した資源】・幼児センター「きらり」、遠別小学校 ・遠別中学校
【対象学年と活動の時期】全学年 5月～12月

(項目ア—観点②絆づくり)

【活動の概要】 幼児や小学生、中学生、地域の方々と望ましいコミュニケーションの在り方を学習し、交流を図る。
【ねらい】 ・望ましい人間関係を構築するために、コミュニケーションスキルを身に付けさせる。 ・相互に協力して活動に取り組もうとする、主体的、協働的な姿勢や態度を育成する。 ・地域の方々との交流を通して、集団における自己の役割を確認するとともに、自己有用感を育む。

【活動の流れ】 ①計画に基づいて、交流、連携活動を行う。交流、連携活動に関わる事前指導を受けた後、幼児や小学生等に対して、技術的なアドバイスや商品説明ができるように計画、準備を進める。 ②計画に基づいて、各交流、連携活動を行う。 ③各交流、連携活動の実施後、事後指導を受け、学年及び専攻班ごとに反省会を行う。 ④各交流、連携活動に関わる反省や課題点については、次回の各交流、連携活動に生かすようにする。

各交流では、楽しさや大切さが伝わるように手本を見せ、伝え方などを工夫して頑張りました。



トウモロコシ定植体験（遠別小）



田植え体験（遠別小）



花壇造成（幼児センター）



枝豆収穫体験（幼児センター）



稲刈り体験（遠別小）



トウモロコシ収穫体験（遠別小）

わかりやすい説明を工夫することで、幼児や小学生が上手にできるようになりました。

【本活動における成果等（留意点含む）】 ・生徒が幼児や小学生と触れ合うことで、年少者に対し優しく接する態度や自己有用感を育むことができ、その後の学校生活においても、仲間同士で思いやりの心をもって接することができるようになった。 ・販売会では商品説明を求められたり、クレームに対応したりするなど適切な対応に努めることで、課題解決能力や積極性の向上が図られ、その後の学校生活において、生徒が主体的、協働的に活動する場面が増えた。 ・1、2年生にとっては、学習活動における学び合いが活発になるなど、相互交流を通じたコミュニケーションスキルの向上が感じられる場面が見られた。 ・3年生にとっては知識、技術の定着と自信につながり、リーダー性や指導力を身に付けるとともに、責任感を養うことができた。

【学校名】北海道枝幸高等学校
【活動の名称】 コミュニケーション・トレーニング
【活用した資源】ネイパル深川、外部講師
【対象学年と活動の時期】1年生、4～10月

(項目イー観点①居場所づくり)

【活動の概要】
 ・入学後から学校祭の実施に向け、4～7月に集中的にコミュニケーション・トレーニングを実施している。また、生徒指導部による「生活実態調査」や、子ども理解支援ツール「ほっと」を活用し、生徒個人や学級集団の実態把握も行っている。

【ねらい】
 ・第1学年で計画的にコミュニケーション・トレーニングを実施し、入学後の新たな人間関係を形成する力や、相手を思いやり、受け入れる心の育成を図り、協調的な集団づくりを行う。また、7月の学校祭に向けて集中的に年度始めに実施している。

【活動の流れ】

- ① 第1回 4月20日(水) オリエンテーション
アイスブレイク、コミュニケーション・トレーニングの意義の理解
- ② 第2回 4月29日(金) 宿泊研修で実施(於: ネイパル深川)
テーマ「月からの脱出」に必要なアイテムを、グループで協議
- ③ 第3回 5月17日(火)
コミュニケーションの重要性の理解(話し手、聞き手体験)
- ④ 第4回 6月22日(水)
積極的な話し合い活動(相槌などの受容反応、繰り返し など)
- ⑤ 第5回 10月7日(金)
高齢者疑似体験による相互扶助やコミュニケーションの意義の理解(外部講師の活用)

第2回

第4回

第5回



<宿泊研修における
アイスブレイクの様子>



<コミュニケーションスキルの
育成に向けた活動の様子>



<高齢者疑似体験の様子>

第3回 コミュニケーションの重要性の理解(生徒の感想)

- ・自分が楽しい話をしていても、相手がつまらなさそうに聞いていると悲しい気持ちになった。
- ・話の聴き方次第で人に与える印象が大きく違うことが分かったので、これから意識したい。

第4回 積極的な話し合い活動実施概要

- ・1学年団の教員が、好ましくない話し合いのデモンストレーションを見せ、生徒にどんな点がよくないか、どうしたらよい話し合いになるかを考えさせる。
- ・その後、好ましい話し合いのデモンストレーションを見ながら、話し合いの方法の1つであるブレインストーミングについて学ぶ。

【本活動における成果等(留意点含む)】

- ・入学当初から生徒の相互理解が深まり、コミュニケーションスキルの向上を図りながら、思いやりのある良好な人間関係を構築することができた。
- ・課題として、3年間を見通したコミュニケーションスキルの計画的な育成と、自己を振り返る場面を設定する必要がある。